コンセプトを具現化する設計手法に関する研究

指導教員　加茂　紀和子　教授　　井上　祐紀

1. 研究の背景と目的

美術館には、国内外の様々な作品の展示を行う一般的な美術館と、特定の作品、特定の作家の作品を展示する美術館（以下、特定美術館）がある。前者は様々な企画展示に柔軟に対応できるものが要求される一方で、後者は設計段階から作品イメージや作家の思想といった固有性を建築に反映するなど、各コンセプトによって多様で特別な空間が実現している。

そこで本研究では、特定美術館を対象としてコンセプトを具現化する設計手法を明らかにすることで、美術館建築のあり方を考察することを目的とする。

2. 研究概要　建築専門誌『新建築』に1925年から2022年の間に掲載された美術館の内、特定美術館62作品を研究対象として言説を分析し、それらのコンセプトを具現化する設計手法を明らかにする。

3. 要素の抽出と分類・分析

対象作品の言説の中から設計コンセプトを言及する文章を抽出し（表１）、設計意図、操作、空間要素、効果について意味内容を読み取り、分析した（表２）。

3.1 空間要素の分類・分析　空間要素について、21の空間要素を得た。その中で、外観、立地、レベルなど建築全体に現れるものを【概形】とし、展示空間、交流スペースを始めとした内部空間を【内部空間】、庭、アプローチ、テラスなど建築外部に存在する要素を【外構】と３つにグループに分けた（表３）。

3.2 設計意図の分類・分析　設計意図を表す言説では、作家の思想や作品イメージを建築に反映するといった固有性に関する設計意図５項目を〈芸術家の固有性〉として（表４）、地域活性化や自然風景との調和、法的な制限への配慮など一般的な美術館建築にも共通してみられる設計意図８項目を〈建築的側面〉として（表５）抽出した。〈芸術家の固有性〉の５項目の割合を見ると、「作家性を反映」「来館者の行動を誘起」が言及される割合が全体の7割以上を占めることが読み取れる。また〈建築的側面〉の８項目では、「敷地情報を反映」が言及される割合が全体の4割以上を占めることが読み取れる。

3.3 操作の分類・分析　次に、操作についての言説分析では、立地、配置を始めとした16項目を抽出し、設計意図の〈芸術家の固有性〉〈建築的側面〉別、空間要素の【概形】【内部空間】【外構】別に整理し分析した（表６）。〈芸術家の固有性〉について見ると、【概形】では［形状］［仕上げ］、【内部空間】では［仕上げ］［採光］

表１　設計意図・空間要素・操作・効果の抽出方法

記述：

相田みつをの書は、単純で奥が深い 省略 が一読しただけで平易に理解でき…

…であると思う。作品の展示を中心とした第1ホール（墨の間）では、より作品との距離感をなくすために、空間全体がある種の情感を引き出すようなものにしたいと考えた。5つの展示室は、床から間接光が立ち上がるという共通項を持ちながら、壁面の仕上げはそれぞれ異なるものとなっている。それにより、巡回していくうちにさまざまな情景を体感していくことになる。

囲み部：抽出部分　下線部：設計意図　破線部：操作
網掛け部：空間要素　二重下線部：効果

抽出：

項目	意味内容	分類
設計意図	展示空間全体を情感のあるものにすること	来観者の行動を誘起〈芸術の固有性〉
空間要素	展示空間	【内部空間】
操作	5つの展示室の壁面を、異なる仕上げとする	［仕上げ］
効果	来館者は、巡回していくうちにさまざまな情景を体感する	

表２　設計意図・空間要素・操作・効果の抽出と分類例

基本情報		写真
作品	玉堂美術館	
設計	吉田　五十八	
掲載年	新建築1961年7月号50P	
住所	東京都青梅市御岳１丁目７５	
内容	日本画家・川合玉堂の作品を展示	

	意図	建築的操作	効果
芸術家の固有性	作家性を反映	空間要素：【概形】 **外観**　「私は30年来、先生の普請を手がけてきたので、先生の性格はよく知りぬいており、その画風も十分理解しているつもりであるが、先生には剛軟両産があった。（省略）その点をこの建物にも反映したかった。それ故、外観の基調を飛騨の民家にとり、それに寺院の雰囲気と格調をとり入れ、混然一体としたわけである。」 作家の性格と画風を外観に反映　**［建築意匠］**	—
芸術家の固有性	作家性を反映	空間要素：【内部空間】 **展示空間**　「（省略）つぎに先生のありし日そのままの画室の生活を展示して、玉堂先生がいかなる態度で絵を描いておられたかを示して、人間玉堂をそのまま表現した美術館としたわけである。」 作家の描写態度や画室を保存・展示　**［展示］**	—
建築的側面	敷地情報を反映	空間要素：【外構】 **庭**　「美術館をとり巻く自然が強烈なので、部材を太くして調和を計ったが、その風景と庭とをどう結びつけるかも苦心をはらったところであった。結局、白砂を敷きつめ石庭とし、この奥多摩の美しさと自然を借景とするより、ほかに手がなかったようであった。」 石庭とし、景観を借景とした　**［作庭］**	自然風景との調和

表３　空間要素の分類と箇数

分類	項目	箇数
【概形】	外観	33
	配置	20
	平面	14
	立地	9
	ボリューム	7
	レベル	4
	動線	1

分類	項目	箇数
【内部空間】	展示空間	51
	動線	10
	内部空間全体	5
	展示室入り口	3
	交流	2
	ホール	1
	ロビー	1

分類	項目	箇数
【外構】	庭	9
	アプローチ	6
	地域との境界	4
	ランドスケープ	3
	動線	2
	展示	2
	テラス	1

表４〈芸術家の固有性〉の設計意図と分類

	分類	内容	箇数
1	作家性を反映	作品イメージ、原風景、思想を表現	39
2	来館者の行動を誘起	視線の制御など空間体験を誘発	35
3	作品を引き立てる	建築は作品の背景とし作品を引き立てる	16
4	コラボレーション	芸術家と共同で空間的作品を作る	9
5	建築家の解釈	建築家の理解で作品鑑賞の場を作る	3

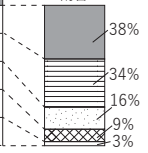
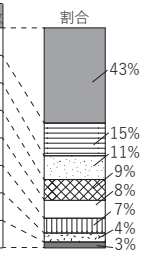


表５〈建築的側面〉の設計意図と分類

	分類	内容	箇数
1	敷地情報を反映	敷地の特徴、形状、自然風景を反映	32
2	建築家の意向を反映	建築家の独自な表現や思想を反映	11
3	記憶の継承	旧建物の形式を踏襲、活動の継承	8
4	適応性・普遍性	美術館の普遍的な在り方を提案	7
5	施主の要望を反映	施主の要望を建築に反映	6
6	都市計画の一環	地域開発のため周辺との関係を考慮	5
7	地域活性化	地域を活性化、文化の発展を目指す	3
8	法的な制限を考慮	法的な高さ、形態規制を考慮	2



A Study on Design Methods Embodying Concepts: Art Museum Exhibiting Works Of One Particular Artist

Yuki INOUE

[構成][照明]に関する言及が多く、〈建築的側面〉について見ると、【概形】での[配置][仕上げ][形状]の操作が特に多いことが読み取れる。

4. 言説と要素との関係の分析

4.1 空間要素と操作の関係　〈芸術家の固有性〉5項目と〈建築的側面〉8項目について、空間要素、操作との関係をコレスポンデンス分析し、設計意図別に考察を行った。その一例として、〈芸術家の固有性〉「来館者の行動を誘起」について、3つのまとまりを得た(図1)。【内部空間】では、[仕上げ][意匠][照明][採光]といった来館者が作品鑑賞時に受ける印象に関わる建築ディテール、空間演出に関する操作や、[レベル][スケール][構成][動線][勾配]といった来館者の動作や視界の変化に関する操作と結びつき、これは①《空間体験の形成群》とする。また空間要素の割合(図2)から、【内部空間】は〈芸術家の固有性〉「来館者の行動を誘起」の空間要素の約6割を占めており、特に展示空間、動線の割合が多くみられることから作品鑑賞に関わる空間を重要視していることがわかる。また、【概形】では[平面][配置]との結びつきがあり、これを②《作品鑑賞の場の形成群》とする。【外構】では、[展示][作庭][水景]と結びつき、空間要素ではアプローチ、庭の割合が特に多く、これらの集まりを③《アプローチの形成群》とする。

4.2 設計意図と操作との関係　設計意図と操作とのコレスポンデンス分析から、4つのまとまりを得た(図3)。これらのうち、地域の活性や敷地との関係が重要視されるものをⓐ《敷地との関係群》とし、来館者の行動を誘起し、作家性を表現したり建築家によって空間体験を誘発するものをⓑ《来館者コンシャス群》とし、作品を魅力的に見せることを重要視したもの、作家と共同で空間的作品を作るものをⓒ《作家固有性を重視群》とし、法的な制限、都市計画へ配慮し、美術館の適応性・普遍性に関わるものをⓓ《適応性・普遍性群》として位置づけた。ⓐは[立地]や[配置]と結びつき、敷地形状や自然風景、地域との関係を考慮して建築形態を決定する傾向がみられる。ⓑは空間の[構成][レベル][平面][勾配]の配慮に結びつき、来館者の動作や視界の変化に関わるものを操作することで、来館者の行動や視線を操作する傾向が見られ、また[形状][仕上げ][意匠]と結びつき、建築表面にみられる装飾、色彩、素材感等のディテールに配慮することで来館者が受ける印象を操作する傾向にある。ⓒは[展示][採光][照明]と結びつき、展示形式や空間演出に関わるものを操作することで作品や空間の印象を強める傾向にあると考察できる。ⓓは[スケール]と結びつき、都市計画や法規制との関係性を考慮し、建築スケールを決定する傾向にある。

表6　各設計意図の空間要素にみられる操作とその分類

	分類	内容	〈芸術家の固有性〉			〈建築的側面〉			合計
			概形	内部	外構	概形	内部	外構	
1	[立地]	立地の選定	7	0	0	8	0	0	15
2	[配置]	建物の配置	5	0	1	19	0	0	25
3	[レベル]	レベル/階高	3	1	0	4	0	0	8
4	[スケール]	スケール/建物高さ	2	7	0	5	2	1	17
5	[平面]	平面計画	8	0	0	4	1	0	13
6	[構成]	壁/開口の位置/隙間・ずれ	1	14	2	3	3	1	24
7	[動線]	動線計画	1	5	2	1	0	5	14
8	[形状]	曲面/直線/フォルム	11	5	1	11	1	0	29
9	[仕上げ]	色/材料/テクスチャ	14	21	0	13	5	1	54
10	[意匠]	意匠/装飾	2	5	0	1	2	0	10
11	[展示]	展示計画	1	9	1	0	2	0	12
12	[照明]	人工照明	0	11	0	0	1	0	12
13	[採光]	採光	0	19	0	1	2	0	22
14	[水景]	水盤/池	0	2	5	0	0	3	10
15	[作庭]	植栽/石庭	0	0	5	0	0	2	7
16	[勾配]	傾斜/スロープ	1	4	2	2	0	0	9
合計			56	103	19	73	19	13	282

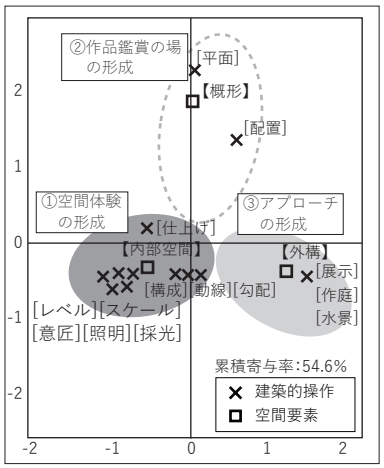


図1「来館者の行動を誘起」における空間要素と操作のコレスポンデンス分析散布図

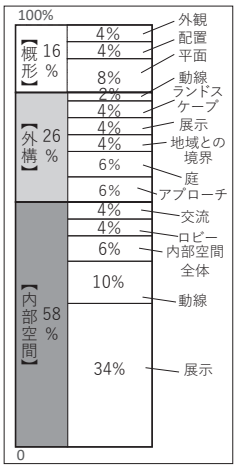


図2「来館者の行動を誘起」における空間要素の割合

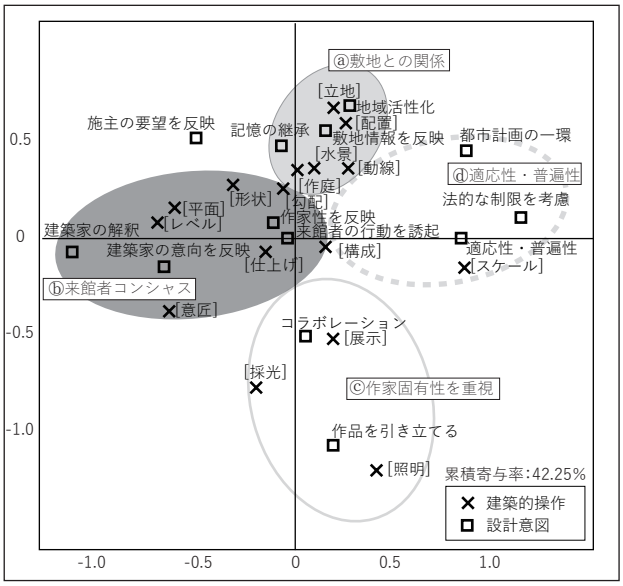


図3　設計意図と操作のコレスポンデンス分析散布図

5. まとめ　特定美術館にみられる設計意図とその設計手法について把握できた。特定美術館では、作家固有性を視覚的に表現・演出し、より作品が魅力的に見える配慮を行うことで作家とその作品の印象を強め、従来の美術館よりも固有性、特別さを高めている。また、来館者の動作や視界の変化に関わるものを操作することで、来館者が作家の芸術を空間体験できる場を創出していることが明らかになった。

【参考文献】『新建築』、新建築社、1925.8-2022.4